


**こんにちは
横田ゆう**です



日本共産党足立地区委員会
くらし・福祉・介護の相談室長
足立区西伊興4-7-8
☎ 03-3855-1587

不登校・いじめ対策の足立区独自の35人学級条例を否決

いま、足立区では不登校の児童生徒数が23区で最悪の1000名を超えています。

日本共産党区議団は今定例会に35人学級を全学年で実施するため、足立区独自に学校教育職員を採用する条例を提案しました。

審議した総務委員会では、提案者の針谷みきお議員が学校教育職員の給与、勤務時間等に関する条例案の内容を説明、さらに、職員採用計画などを策定しなければならぬ規定を説明。区長や区教委の執行権に配慮し、条例の施行は2020年4月としていることを説明しました。

**ひと言の質疑せず
自民、公明ら否決**

質疑ではどの党もひと言も発言せず、意見表明では、自民党(渡辺ひであき)委員は「現行で問題ないので条例に反対」公明党(たがた直昭)委員は「人事委員会の意見について触れていたが、現行に問題ないので反対」立憲民主(おぐら修平)委員「条例の趣旨はわかるが、文教委員会の報告に教員の働き改



革であらたな方策がしめされているので、様子を見守りたいので反対」といずれも意味不明な発言で否決しました。

本会議でも、自民、公明、立憲民主、無党派(土屋のりこ議員は賛成)の反対で否決されました。傍聴していた区民から「自民、公明らの議員は、不登校の子どもの増えている教育行政を問題なしとする発言は信じられません」と意見が寄せられました。


区議会議員 針谷みきお (2面に続く)

議員提案の議案に対する各党の態度	結果	自民 15名	公明 13名	共産 7名	立憲 4名
2019.3 足立区独自に35人学級を実施する条例	×	×	×	○	×
2017.3 公共交通、生活交通の確保に関する条例	×	×	×	○	×

横田ゆう 事務所開きのご案内

とき 4月20日(土)
◎第1回目午後2時~
◎第2回目午後6時~

ところ 後援会ニュースでお知らせ



**横田ゆうさんをはげますつどい
14中体育館で盛大に開催**



「横田ゆうさんを丸ごと知るコーナー」ではクイズとトークで盛り上がりました。



3月31日、横田ゆうさんをはげますつどいが盛大に開かれました。フォト特集は横田ゆうブログでお知らせします。



針谷みきお区議
斉藤まりこ都議



新あだち社 足立区日の出町27-3-1130 鈴木秀三郎
2019年4月号外 日本共産党足立地区委員会の見解を紹介します

新あだち

不登校急増の要因は教育行政にある

35人学級はいずれ実施したいー区教委

区議会予算特別委員会で針谷みきお区議が、足立区の不登校の急増と区教育委員会の責任を明らかにしました。また、足立区独自の35人学級の実施を求めた質疑の内容をお知らせします。一問一答形式の「である調」にしてあります。

◎針谷みきお委員ー不登校・いじめなど足立区の教育課題について聞く。各党が足立区の不登校について質問している。問題はなぜ不登校が増えていったかである。

不登校児童・生徒の増加の根底には貧困と格差の広がり、政治に対する不信など社会全体のひずみ、家庭崩壊や人間同士の分断が深刻になっていることなどがあげられると思うがどうか。

●答弁ーご指摘の通りの面もある。

◎質問ーではなぜ、2006年ごろから足立区の不登校がはつきりと上昇傾向を示し、東京都の平均値を上回るようになったのか。学校教育が学習塾を中心として教育産業のノウハウに依存し、学校現場にそれを押し付けていった時期と不登校児童生徒の急増とが時系列的に重なっている。こうした施策が足立区の各学校から子どもたちの「安心感」を徐々に奪い去り、学校を子どもたちが多くの「不安」を感じる場へと変えていったのではないか。

●答弁ーそういう面もあると思う。

◎質問ー日本財団が昨年12月に発表した「不登校傾向にある子どもの実態調査」が出された。学校生活をめぐる子どもの特徴は6タイプある。不登校、教室外登校、部分登校、仮面登校授業不参加型、仮面登校授業参加型、登校



小学校の「学びあい」の授業風景

となっていて、不登校が全生徒の3%、足立区は5・7%、さらに不登校傾向の生徒は13・3%に達している。さらに重要なことは、「学校に行きたくない理由」について身体症状以外の要因では、「授業がよくわからない、ついていけない」(49%)、「テストを受けたくない」(28%)、小学校の時と比べて、「良い成績がとれない」などの学習に関する理由が、対人関係などの要因を上回って、主要な部分を占めていることが明らかにされている。

この調査から不登校の大きな要因のひとつに学力テスト中心の学力向上施策が影響しているのを見て取れるのではないかと伺いたい。

●答弁ーそういう面もある。

子どもへの無理強い逆効果

◎質問ー昨日、教育長は不登校児童生徒に対して、「頑張れ」「出てこい」と言われることが一番つらいと答弁していたが、まさにその通りだと思う。

授業がよくわからないこともにもっと勉強しなさいとか、勉強合宿などですまざるをなくすとして詰め込みをすることで、そのときは仕方なくホーズをとっていても、実際は心ここにあらずで、自分ではできない、ダメな人間だとなってしまう自己肯定感ほさらに落ち込んでしまう。

区教委はよいことをしているつもりでも、逆効果になってしまっているのではないか。

●答弁ー勉強合宿はたしかにやった直後は良いがすぐに元に戻ってしまふこととはご指摘の通り。

◎質問ー都留文科大大学学長の福田誠治教授は「格差をなくせば子どもの学力は伸びる」「競争は能力が『ないよう』に見える」者を途中で排除してしまう」と指摘。「点を取るための教育方法は画一化されたため弊害が起きている。

学力世界一といわれているフィンランドの教育は大学まで受験がなく数値

的なテストもない。そして1生徒あたりの教師の数が多く、授業の進め方に関して教師に大きな裁量権がある。教育内容にスタンダードなど設けない。問題解決力、批判的思考、コミュニケーション能力、忍耐、自信といった教科を横断した能力など21世紀を生き抜く子どもを育てている。」と指摘。

過度な競争による学力施策ではなく、一人ひとりの子どもに寄りそった学力施策こそ、今、足立の子どもたちに必要なことではないか。

●答弁ー教育スタンダードは必要だと考えている。

学校への人的配置は急務

◎質問ー全国小学校校長会は「今後、人的支援なしに新学習指導要領を踏まえた教育活動を実施していくと、教員の質を高める研究、研修時間等の減少が余儀なくされ、期待される成果が十分出し得ない、更に他の教科の学力水準も担保できないのではないかと」「専科の指導等の充実及び少人数学級、指導の推進など、教職員定数の改善がどうしても必要です。」という意見書を文科省に提出している。

新年度予算では不登校対策としてチャレンジ学級の増設や学校にスクールソーシャルワーカーなど人的支援をしようとしている。これはわが党が要望していたもので賛成だが、より抜本的な対策が求められていると思うがどうか。

●答弁ーご指摘の通り、教育現場への人的配置は必要だと思う。

◎質問ー少人数学級は、子どもの悩みやトラブルに対応するうえでも、子どもの発言の機会がふえるなど学習を豊かにするうえでも、不登校、いじめ、問題行動等足立区がかかえる教育課題を解決する決定的に重要な教育条件である。区教委は35人学級は実施すべきと考えているのかどうか。

●答弁ーいずれ35人学級は実現したいと考えている。

※解説ー自民、公明、立憲民主らの議員はこうした質疑を聞いていてる中で、35人学級に反対するという態度をとっています。

区民のみなさんのご意見・ご要望をぜひ、区議会各派にもお寄せ下さい。